

(別紙様式2)

令和2年 3月31日

研究開発完了報告書

住所 山口県山口市滝町1番1号  
管理機関名 山口県教育委員会  
代表者名 教育長 浅原 司 印

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和元年 6月 3日(契約締結日)～ 令和2年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山口県立田布施農工高等学校  
学校長名 小松 啓二  
類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

「農工維新！田布施あい<sup>3</sup>プロジェクト  
～地域とともに未来を切り拓くジェネラリストの育成～」

4 研究開発概要

《育成すべき人材》

- ① 将来の地域産業の担い手となるために、幅広い「知識・技能」を身に付けた人材
- ② Society5.0を迎える時代に、未知の状況にも対応できる創造力を持った人材
- ③ 学びを人生や社会に生かし、多様な集団の中で世代を超えて協働できる人材

《地域課題解決に向けて》＝空間軸

- ① 「農林水産業の担い手の確保と育成」のために
- ② 「地域情報の発信力の強化」のために
- ③ 「地域コミュニティづくり」のために

《人材育成プログラム》 田布施あい3プロジェクト＝時間軸

- ① 「Eye(見る)」プログラム(地域課題を発見：1年次)
- ② 「I(自分)」プログラム(地域課題を自分のこととして考える：2年次)
- ③ 「AI(愛)」プログラム(課題解決に向けた探究的な学びを通じて、地域と自分を愛する：3年次)

5 教育課程の特例の活用の有無

無

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目		実施日程									
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
コンソーシアム	会合	○				○				○	
	連携活動	○		○		○	○	○	○		
運営指導委員会	会合		○							○	
その他	発表会	○					○				
	見学・講演等	○		○	○	○	○	○	○	○	
	講習開催等		○	○	○	○			○	○	

### (2) 実績の説明

#### ① 事業の管理方法

- 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

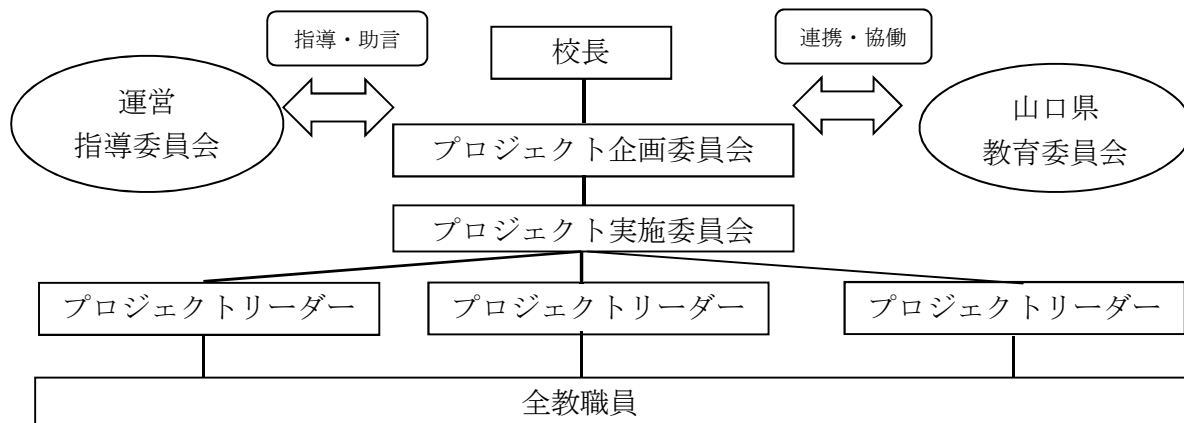
##### (ア) プロジェクト企画委員会

職名等	役割分担
校長	統括
教頭	連絡調整
事務長	財務担当責任者、予算管理・経理事務
山口大学准教授	カリキュラム開発等専門家
田布施町郷土館館長	地域協働学習実施支援員
教諭(専門部長)	取りまとめ
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(生物生産科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(食品科学科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(都市緑地科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(機械制御科)

##### (イ) プロジェクト実施委員会

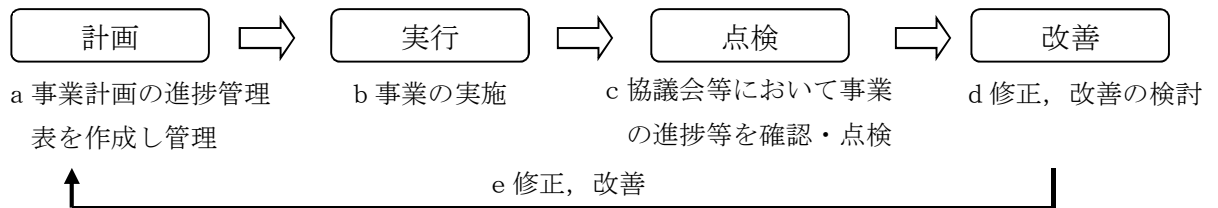
職名等	役割分担
教諭(専門部長)	取りまとめ
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(生物生産科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(食品科学科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(都市緑地科)
教諭(学科長)	プロジェクトリーダー(機械制御科)
授業等関係教諭	人数、メンバー等適宜

- 学校全体の研究開発体制について(教師の役割, それを支援する体制について)



- ・ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

**PDCAサイクルにより事業を管理**



② コンソーシアムの構成

	機関名	役職	機関の代表者名
1	山口大学研究推進機構 知的財産センター	准教授	陳内 秀樹
2	田布施町郷土館	館長	高橋 茂樹
3	(株)井森工業	専務取締役	井森 幹雄
4	山口県農林総合技術センター 農業担い手支援部	教務課長	奥野 忠
5	アグリ南すおう(株)	常務取締役	勝本 澄人
6	協同組合田布施地域交流館	マネージャー	鐘突 久伸
7	(株)朝日製作所	代表取締役社長	河村 太郎
8	齋藤牧場	代表	齋藤 貴之
9	農水省中国四国農政局南周防 農地整備事業所	所長	瀬戸 太郎
10	田布施町経済課	課長補佐	長谷 満晴
11	田布施町企画財政課	係長	井上 信哉
12	田布施町教育委員会社会教育課	社会教育主事	藤田 昌也
13	田布施農工高等学校	P T A会長	原田 国男
14	田布施農工高等学校 校長	校長	小松 啓二
15	山口県教育庁高校教育課	課長	木村 香織

③ カリキュラム開発等専門家について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター 准教授 陳内 秀樹  
(コンソーシアム, 教員・生徒研修会等の開催時に来校を依頼)

④ 地域行動学習実施支援員について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

田布施町郷土館 館長 高橋 茂樹  
(コンソーシアム, 教員・生徒研修会等の開催時に来校を依頼)

⑤ 管理機関による主体的な取組について

- ・ 県事業「明日のやまぐちを担う産業人材育成事業」, 「やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業」等を活用した支援
- ・ コンソーシアム委員によるインターンシップ, 各種研修の引受・調整等

⑥ 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・ 学校運営協議会の委員を兼ねるコンソーシアム委員により、事業終了後は学校運営協議会において地域と学校の協働を支援
- ・ 県事業による支援の継続

⑦ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

田布施町と田布施農工高等学校との連携・協働に関する協定を締結(H31. 3. 26)

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「農業と環境」での基礎学習	1回	2回	3回	1回		2回	4回	2回	2回	2回	2回	
科目「農業情報処理」RESASを用いた地域での探究学習					1回	1回		2回		2回	1回	
「総合的な探究の時間」における他学科での実習	2回	2回	2回	1回		1回	3回	2回				
「総合的な探究の時間」による地域での探究学習			1回	1回	課題	3回	1回	1回	1回	2回	2回	

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

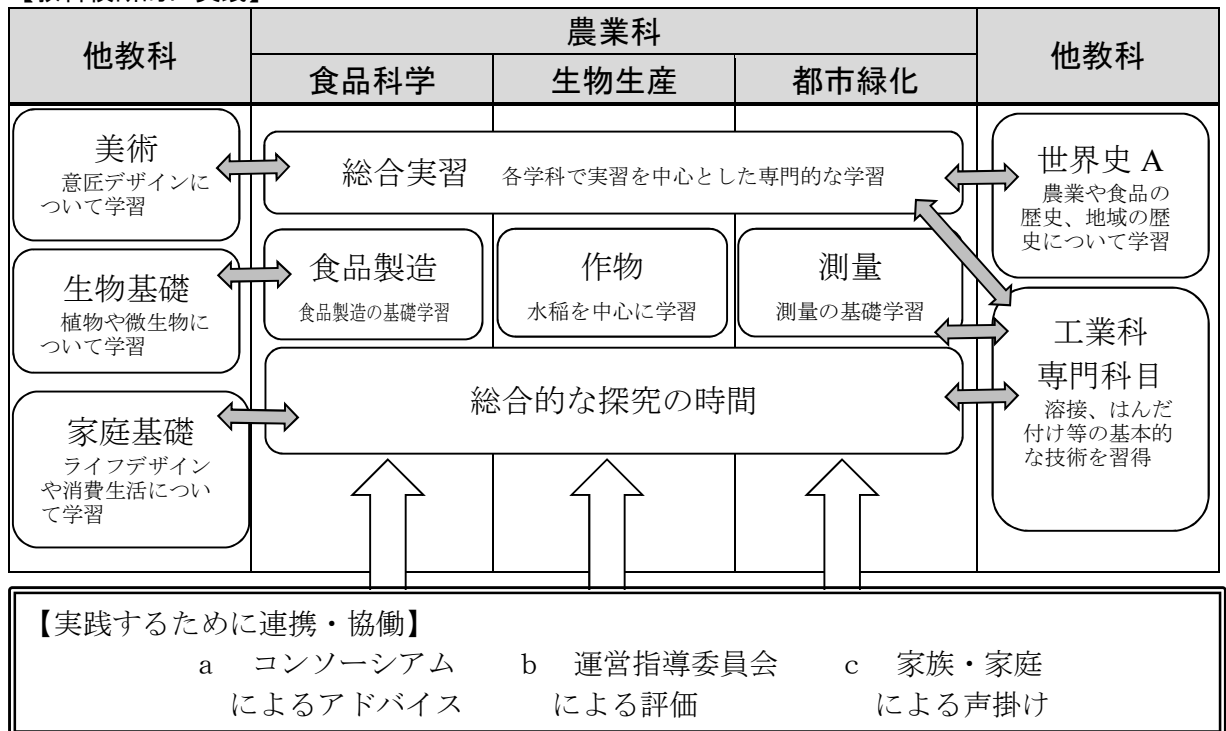
1年生の取組	3年生の取組(参考)
(田布施町と向き合う) ・ 田布施町ってどんなまち ・ わたしが〇〇したら田布施町は・・・ ・ 地域交流館の〇と× ・ 田布施町の課題を見つけよう ・ 縁おむすびを作る (田布施町で研究する) ・ 防災グッズを考えてみよう ・ 地元企業と連携して、田布施町のためにできること ・ 発明のアイデアを考えよう	・ 食品残渣を使った家畜飼料の開発～高品質な鶏卵生産をめざして～ ・ GAPへの取り組みについて ・ たぶせ プチソレイユ化計画 ・ ハローウィンカボチャを用いた地域活性化について ・ それいけ！地域の望幸隊(ぼうさいたい)～幸せ運ぶ防災食の開発と普及をめざして～ ・ 小学校連携～ダイズの加工品作り～ ・ 酒粕の利用 ・ 添加物を使わない商品開発 ・ 苔の栽培、苔シートの開発 ・ 田布施町炎川の洪水流量と断面について ・ IoT 農業デバイスの開発 ・ 農作業におけるアシスト器具の開発 ・ 小学校連携と知財教育

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・ 教育課程の特例は活用していない。
- ・ 「総合的な探究の時間(3単位)」を活用し、学科(農業3科:生物生産科・食品科学科・都市緑地科, 工業1科:機械制御科)を越えて教科・科目横断的な実習の取組。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させた教科等横断的な学習とする取組について

【教科横断的に実践】



④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

探究的な学びを実現するためにあげた地域課題別に記載

【本事業で取り組む地域課題① 農林水産業の担い手の確保と育成】

- ・ ヤングファーマー養成研修を行い、地域の農業法人や山口県立農業大学校を視察
- ・ アグリフォーラムを開催し、地域の農業法人の若手就農者とのグループディスカッションを実施
- ・ GAP指導員による授業を実施
- ・ 農業大学校の学生との意見交換会を実施
- ・ 中国四国農政局南周防事業所とアグリ南すおう（株）において、農地整備事業現場の見学や事業内容の説明を受け、「地域の農業活性化に向けて」というテーマで学習

【本事業で取り組む地域課題② 地域情報の発信力の強化】

- ・ 科目農業情報処理において、RESASを用いた地域分析
- ・ たぶせあいレポートで取り組んだ縁おむすびを、TABLE FOR TWO 主催の『おにぎりアクション』に出展
- ・ 地域で防災食作り講習会を実施
- ・ 県内特産品を用いたカレーを開発し、玖珂PAにおいて期間限定で販売
- ・ 望幸隊による各種発表を実施（産業教育振興会、やまぐち地域連携教育の集い、農業アクション大賞、あぐりずむWEEKENDでの発表・取材等）

**【本事業で取り組む地域課題③ 地域コミュニティづくり】**

- ・ 夏休みにたぶせあいレポート（各科共通テーマ：田布施町と向き合う）に取り組み、年3回の発表会を実施
- ・ メカトロ研究部において、小学生との工作教室、プログラミング教室、発明クラブでの教室を開催
- ・ 田布施地域交流館、酒造会社、製造工場（ポンプ、菓子）、岩国防災学習館、国営のほ場整備事業現場等の見学
- ・ 下関気象台の気象予報士を招いた防災出前授業を受講
- ・ クボタのアシストスーツ開発者を招いた知財教室を受講
- ・ 地域交流館や地域コーディネーターと協力して、田布施町との特産品開発

- ⑤ 成果の普及方法・実績について  
報告書の作成や学校HPへの掲載

**8 目標の進捗状況、成果、評価（令和元年2月28日現在）**

**（1）卒業までに生徒に習得させる具体的能力の定着状況を測るものとして設定した定量目標からの進捗状況**

- ① 地域産業の担い手となるための、幅広い「知識・技能」を身に付けた人材

**【定量目標】**

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| ・ 生物生産科生徒が JGAP に対応した農業生産物を 5 品目以上栽培する。 | → 0 品目                  |
| ・ 食品科学科生徒が食品製造において全品目 HACCP に対応する。      | → 0 品目                  |
| ・ 食品科学科生徒を中心に開発商品を 5 品目以上商品化する。         | → 2 品目                  |
| ・ 全ての生徒が 3 つ以上の専門的資格を取得する。              | → 59%の生徒が 1 つ以上の専門的資格取得 |

**【評価】**

すべての定量目標項目において目標が未達成であるが、取組は実施されており、次年度以降に成果が出始める見込である。

- ② Society5.0 を迎える時代に、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を習得し、産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材

**【定量目標】**

- |   |        |
|---|--------|
| ・ 地域に関する研究において、グループのアイデアを実践し、日々の記録をとり、振り返ることができる生徒が 100%。 | → 100% |
| ・ 地域経済分析システム（RESAS）を用いて地域の現状を分析できる生徒が 80%以上。              | → 75%  |
| ・ 将来人の役に立ちたいと考える生徒が 100%。                                 | → 92%  |

**【評価】**

現状では概ね目標を達成できている。

- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を身に付け、多様な集団の中、世代を超えて協働できる人材

【定量目標】

- |                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| ・ 社会貢献活動等地域活動に携わる生徒が 100%。           | →100% |
| ・ プレポストの自己評価により、自らの成長を実感できる生徒が 100%。 | → 96% |
| ・ 将来地域に貢献したいと考える生徒が 90%以上。           | → 72% |

【評価】

目標に近づいてはいるが、発展途上である。地域での探究活動や協働を通して自己肯定感を育み、学んだことを活かし、考えたことを自分事にしていけるような指導が必要である。

- (2) 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、地域協働推進校となる高等学校等と協議の上、設定した成果目標（例：将来地元での就業を希望する生徒数、高等学校卒業後の地元就職率等）

【定量目標】

- |  |       |
|--|-------|
| ・ 田布施町及び近隣市町での就業を希望する生徒が 80%以上。  | → 57% |
| ・ 卒業後に県内就職を希望する生徒が 95%以上。  | → 72% |
| ・ 関連産業の就業を希望する生徒が 70%以上。   | → 90% |
| ・ 卒業後もそれぞれの地域での社会貢献活動に携わりたいと考える生徒が 50%以上。（消防団，農業ボランティア，やまぐち社会貢献支援ネット等） | → 75% |

【評価】

将来の就職希望について、目標が達成できていない。高校卒業後の進路について未定の生徒も多いため、探究活動や協働を通して自らの将来のきっかけとなる機会を提供していく必要がある。

- (3) その他本構想における取組の成果目標（該当がある場合のみ）

【定量目標】

- |  |          |
|--|----------|
| ・ 以下の各イベントの参加者数（延べ）を 300 名／年以上にする。<br>「ものづくり教室」「防災教室」「どぶろくイベント」「たぶせ農園」 | → 150 名  |
| ・ その他学校イベントの参加者数（延べ）3,000 名以上にする。                                      | →2,900 名 |

- (4) 生徒の意識変容

地域課題の発見や地域との対話を通じて、自己課題の発見につながり、次年度の研究計画を立てる等の学習によって生徒の意識変容が図られた。

(三菱 UFJ リサーチコンサルティング(株)の「学校魅力化アンケート」より)

※ 各大項目の平均値

- ① 「地域産業の担い手として幅広い知識・技術を有する」について  
89.3%→97.3% 8.0 ポイント上昇
- ② 「Society5.0 に柔軟に対応できる創造力を有する」について  
81.3%→91.2% 9.9 ポイント上昇
- ③ 「世代を超えて他者と協働して課題を解決できる」について  
71.9%→89.4% 17.5 ポイント上昇

<添付資料> 目標設定シート

## 9 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 主体的に考え行動する地域産業を担う人材の育成

【課題】基礎学習を専門学習に活用し、地域に出て実践的な研究をスタート

【改善】コンソーシアム委員の専門性を活かした、地域での活動支援体制の強化  
運営指導委員による評価・検証を活かし、PDCA サイクルで事業を運営

【計画・研究項目】

- ・ 商品開発（加工品、防災グッズ等）
- ・ 休耕田開発
- ・ IoT 農業デバイス開発
- ・ 農業アシストスーツ改良
- ・ 地域環境の調査・研究 等

### (2) 専門高校の教育機能の展開による地域貢献

【課題】各研究を統合し、地域での新事業の起ち上げ

【改善】専門学習を活かした地域での出前授業の充実と連携  
プロジェクト実施委員会における学習内容の共有と協議を一層充実

【計画・生徒による出前授業等内容】

- ・ GAP に関する講習
- ・ 食の安全に関する講習
- ・ 地元食材を活用した加工教室
- ・ フラワーアレンジメント教室
- ・ 防災教室・防災訓練
- ・ 発明クラブ
- ・ 開発商品等の PR のための活動
- ・ 休耕田等を活用した活動の提案・実施 他

### (3) 地域とのコンソーシアムの構築

【課題】地域と学校をつなぐ人材育成プランの可視化

【改善】地域課題の解決や地域活性化に対する理解の深化等を目的とした情報発信  
コンソーシアム委員を軸とした地域の協働体制強化

【計画・情報発信】

- ・ SNS, HP の活用
- ・ たぶせ「あいキュービック」通信の地域配布
- ・ 地域での職場体験
- ・ 地域での組織的なボランティア活動
- ・ 地域内外での研究発表
- ・ アグリフォーラムの充実 他

### 【担当者】

担当課	山口県教育庁高校教育課	TEL	083-933-4632
氏名	大津 久美	FAX	083-933-4619
職名	指導主事	e-mail	ohtsu.kumi@pref.yamaguchi.lg.jp